

(様式1)

平成26年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 108	提案機関名 かながわ西湘農業協同組合
<b>要望問題名</b> 野生鳥獣を寄せ付けない効果的な忌避物質を用いた被害防止技術開発について(継続)	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模(面積、数量等) 】 近年、野生鳥獣による農作物被害が急増しており、農業者が被害を受けても防除方法等の解決策が難しいことから、営農意欲の減退や耕作を諦めたりして、耕作放棄地に繋がっているケースも少なくありません。農家自ら狩猟免許を取得し、猟友会等と連携した駆除対策に取り組んでおりますが、捕獲という手段は被害防除対策によっても被害等が防止できない最終的な手段であります。 また、捕獲以外の被害防除対策として、過去にはイノシシの忌避効果があるとされていた青色発光ダイオード(LED)ライトや狼の毛を購入し、効果を検証したところ、効果は一時的なもので期待できるような忌避効果は確認されませんでした。今後、農作物等に野生鳥獣の効果的な忌避物質を用いた被害防止技術の試験検討をお願いしたい。	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター    ②畜産技術所    ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	農業技術センター	<b>担当部所</b>	企画経営部
<b>対応区分</b>	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合)		
<b>対応の内容等</b>	忌避物質に関しては、平成21年度の研究成果として「ブドウ栽培におけるイヌの被毛の設置によるハクビシン食害防止」を公表していますが、新たな忌避物質のスクリーニングや効果試験は実現可能性等の理由から実施困難です。 県西地域では、鳥獣被害対策チームが発足し、被害状況調査や対策の普及啓発に取り組んでいます。農業技術センターからは、鳥獣害分野の農業革新支援専門員および地域の普及指導員がチームに参画しており、今後も情報の収集・提供等、普及部門をとおして支援してまいります。		
<b>解決予定年限</b>	①1年以内 ②2～3年以内 ③4～5年以内 ④5～10年以内		
<b>備考</b>			